

# 教育委員会の権限に属する事務の管理 及び執行の状況の点検及び評価報告書

(花巻市教育振興基本計画令和元(平成31)年度主要事業実施状況報告書)

令和2年8月

花巻市教育委員会

## 【 目 次 】

I	令和元（平成 31）年度主要事業の実施状況について	1
II	主要事業（施策別）	
1	子育て環境の充実	
(1)	子育て支援の充実	2
(2)	家庭教育力の向上	3
(3)	就学前教育の充実	3
2	学校教育の充実	
(1)	学力の向上	5
(2)	体力の向上	6
(3)	豊かな人間性の育成	7
(4)	個に応じた支援体制の充実	7
(5)	学校保健の充実	7
(6)	教育環境の充実	8
3	芸術文化の振興	
(1)	芸術文化活動の推進	11
(2)	民俗芸能の伝承	11
(4)	文化財の保護と活用	11
III	資料	
	施設利用状況等について	13

## 令和元（平成 31）年度主要事業の実施状況について

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第 26 条において、教育委員会は、その権限に属する事務の管理及び執行状況について点検・評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに公表しなければならないこととされており、また、点検・評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図ることとされています。

このことから、花巻市教育振興基本計画の主要事業（教育委員会の権限に属する事業）について、花巻市教育振興審議会において事業の成果と進捗状況等の評価を行い、国等の教育施策をはじめ本市教育を取り巻く地域社会・環境の変化等を見極めながら、事務事業の見直し及び新規施策の事業化により次年度以降の取組に反映させるよう努めるものとします。

※地方教育行政の組織及び運営に関する法律（平成 30 年 6 月 8 日一部改正）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第 26 条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第 1 項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第 4 項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

# 1. 子育て環境の充実

## 【基本方針】「子育てに喜びを感じ、安心して健やかな成長を育むまち」

### 【子育て支援の充実】

子育て家庭を支援するため、地域子育て支援センターを開所し、子育ての相談や保護者の交流、子育て支援団体間の情報交換会などを実施し、地域における子育て支援に努めるとともに、親子が気軽に集い遊べる「ひろば」の開放やミニ講座を実施し、親のリフレッシュや学びの機会を提供した。また、地域子育て支援情報ネットワーク交流会を開催し、支援団体等と研修や情報交換を通じて、子育ての現状を共有することができた。

子育て環境の充実を図るため、第3子以降保育料負担軽減補助の対象に副食費を新たに追加したほか、子育てガイドブックの配布先の拡充や、新規事業として移動式赤ちゃんの駅の貸出しを行うなど、子ども・子育て支援事業計画（イーハトーブ花巻子育て応援プラン）の推進に努めた。また、市民や関係機関・団体等の意見を伺い、令和2年度から令和6年度を実施期間とする第2期応援プランを策定した。

児童の健全育成のため、放課後や長期休暇中の居場所づくりとして放課後子供教室を実施するとともに、学童クラブの運営について支援した。

### 【保育・教育環境の充実】

保育・教育環境の充実を図るため、公立保育園、公立幼稚園、こども発達相談センターの保育室、職員室（医務室）等へエアコンを設置した。

保育サービスの充実を図るため、病後児保育室を引き続き開設し、安心して子育てできる環境整備に努めた。

### 【家庭の教育力の向上】

就学前教育振興会議、保護者代表者交流会を開催し、関係者から意見・提言をいただくとともに、子育て講演会の開催や「ニコニコガイド」の発行により情報提供を行った。また、基本的な生活習慣を身に付けるため「家族でニコニコチャレンジ」に継続して取り組むとともに、保護者が園で保育士体験を行う「ニコニコせんせい体験」を実施して家庭の教育力の向上の支援に努めた。

### 【就学前保育・教育の充実】

本市の目指す子どもの姿「元気な子ども」「やさしい子ども」「考える子ども」を育成するため、就学前教育推進計画に基づき「はなまき保幼一体研修」を実施し、職員の資質向上に努めた。また、「花巻市アプローチカリキュラム」と「花巻市スタートカリキュラム」の周知・実践により保幼小連携を図り小学校へのスムーズな接続に努めた。

### (1) 子育て支援の充実

(単位：千円)

No.	事業名	事業概要	予算額	決算額	担当
1	地域子育て支援センター事業	地域子育て支援拠点として、就学前の子育て家庭に広場を開放し、親子の相互の交流や子育て相談、子育てに関する講座や情報提供を行った。 ○市内6か所設置 直営3か所 (こどもセンター、宮野目保育園内、大迫保育園内) 委託3か所 (若葉保育園内、石鳥谷保育園内、土沢保育園内)	43,812	43,230	こども課
2	地域子育て支援情報ネットワーク事業	地域子育て支援の拠点として、こどもセンターが市内の子育て支援活動団体や子育てサークルと協働してネットワークを構築し、交流会で情報共有を行った。また、応援型地域子育て支援事業としても、子育てサークルや子育て支援団体の活動支援を行った。	25	21	こども課
3	放課後子供教室・学童クラブ	児童の健全育成を図るため、放課後をはじめとした安全安心な居場所づくりと地域との交流を促進した。	264,361	259,381	こども課
4	第3子以降保育料等負担軽減事業	安心して子どもを産み育てることができる環境づくりを推進するため、保育料負担を軽減した。	45,584	44,876	こども課

No.	事業名	事業概要	予算額	決算額	担当
5	病後児保育事業	傷病の回復期にある児童で保護者の都合により家庭で保育困難な児童の一時的な保育を行った。	10,820	10,126	こども課

## (2) 家庭教育力の向上

(単位：千円)

No.	事業名	事業概要	予算額	決算額	担当
1	家庭教育力向上事業 (保護者への意識啓発)	教育の原点である家庭の教育力向上のため、市内保育園・幼稚園・認定こども園・小学校、保護者、行政の代表者による就学前教育振興会議で課題を共有しながら、情報提供等を行った。 ○就学前教育振興会議開催 ○保護者代表者交流会 ○家庭の教育力を高めるための保護者向け啓発紙ニコニコガイドの発行 ○家族でニコニコチャレンジ実施 ○ニコニコせいせい体験の実施(保護者の保育士体験) ○子育て支援研修会	507	420	こども課
2	家庭教育力向上事業 (保幼小の連続性を考慮した保育・教育の推進)	保育園・幼稚園・認定こども園から小学校へと繋がる子どもの発達や学びの連続性を考慮し、人と関わる力や、道徳心、豊かな感性を培う保育・教育が展開されるよう研修会等を開催した。	150	179	こども課

## (3) 就学前教育の充実

No.	事業名	事業概要	予算額	決算額	担当
1	はなまき保幼一体研修事業	市内保育園、幼稚園、認定こども園の職員が連携して子どもの発達や学びの連続性を考慮した保育・教育のあり方についての合同研修を実施した。 ○公開保育研修の開催 ○市内保育園・幼稚園等園内研究発表会 ○市内保育園・幼稚園等職員研修 ○保幼小連携研修	214	157	こども課
2	幼稚園教育環境充実事業	快適な教育環境を維持するため、公立幼稚園の保育室、職員室(医務室)にエアコンを設置、遊具の修繕、購入を行った。また、私学の運営補助及び保護者の経済的負担を軽減し、市内の幼児教育の充実を図った。 ○私立幼稚園就園奨励事業 ○私立幼稚園運営費、預かり保育事業費一部補助5園 ○私立幼稚園無償化給付、預かり保育利用補助 ○公立幼稚園エアコン設置2園、遊具改良1園、預かり保育室カーテン設置1園	132,891 (うち 繰越分 13,721)	121,775 (うち繰 越分 10,854)	こども課
3	保育所保育環境充実事業	快適な保育環境を維持するため、公立保育園の保育室、職員室(医務室)にエアコンを設置、各施設について計画的に改修及び補修を行った。 ・環境整備 屋根改修2園、インターホン設置1園、フェンス設置1園 ・安全整備 屋外遊具補修8園 ・備品購入 冷房機、ピアノ ・旧内川目保育園解体設計業務、アスベスト調査業務 ・公立保育園耐震診断業務 4園	115,065	96,654	こども課

No.	事業名	事業概要	予算額	決算額	担当
4	幼児ことばの教室事業	発音や吃音などのことばに課題がある就学前の子どもが表現能力を十分発揮できるようにするため、ことばに関する課題を早期に発見し、一人ひとりの発達を考慮した指導を行った。 ○幼児ことばの教室の運営 ・ことばの検査・対象幼児及び保護者への指導 ・保護者からの相談への対応 ・幼児ことばの教室の周知	7,359	7,192	こども課
5	公立保育園再編事業	地域ごとの保育需要の偏在や多様な保育ニーズに対応するとともに、市の人材や財源を適切に配置して質の高い保育を継続的に提供するため、公立保育園の再編を推進した。 ・笹間保育園の移管に係る引継保育の実施	5,991	5,546	こども課

【成果指針】・・・まちづくり市民アンケート(現状値＝平成27年度結果)

	現状値	元年度	令和2年度 (実績値)	2年度 (計画目標値)
子育てしやすいまちと感じる市民の割合	55.7%	62.5%	64.0%	63.0%

1. 子育て環境の充実についての評価

安心して子どもを産み育てることができる環境づくりを推進するため、待機児童の解消を最優先に取り組み、民間保育施設整備への補助や保育施設等の新規開設による利用定員の増加を図ったほか、県内保育士養成学校の学生を対象とした市内保育施設の見学・体験バスツアーの実施や、私立保育所等に勤務する保育士等への家賃補助及び奨学金返済支援補助を継続実施するなど、保育士等の確保に努めた。その結果、平成30年度において最大88人あった待機児童が、令和元年度は最大64人と2年連続で減少し、令和2年4月1日には5年ぶりに0人となり、事業実施による効果が表れている。

また、保護者が抱える育児に関するさまざまな不安を解消するため、病後児保育室の運営のほか、地域子育て支援センターでの育児相談及び地域子育て支援情報ネットワーク研修会を前年度に引き続き実施した。このうち病後児保育室については、延べ99人の利用があり、保護者のニーズに対応した取り組みとなった。

さらに、令和元年10月施行の幼児教育・保育の無償化の制度に適切に対応し、対象世帯への無償化給付を行ったほか、市の独自事業として対象を18歳以下の最年長者を第1子と数えて実施している第3子以降保育料等負担軽減事業により、多子世帯の経済的な負担軽減を図るなど、子育て環境の充実に向けた各種の事業を実施したことが成果指標の向上につながったものと考えられる。

## 2. 学校教育の充実

### 【基本方針】「子どもたちが、夢と希望を持ち、たくましく、いきいきと育つまち」

#### 【児童生徒の学力・体力向上】

「花巻市学力向上アクションプラン」に基づき、学力向上支援員を配置して学力調査等の結果分析を行い、その結果に基づいて各校の取組を支援したほか、30人以上の学級を有する各校に、はなまき授業サポーター、中学サポーターを配置して、児童生徒へのきめ細やかな指導を行い、一人ひとりの実態に応じた指導の充実を行った。

小学校3年生から6年生の外国語活動においては異文化に触れる授業を実施するため、中学生の英語においては語学力向上と国際理解、国際感覚の育成のため、外国語指導助手（ALT）による外国語学習を行ったほか、学校を巡回してALTとのコーディネートや教材についての助言を行う外国語教育支援員を配置し、外国語活動の充実に努めた。

体力向上のため、体力向上実践校を指定して基礎体力向上への取り組みを支援し、児童の運動への意識向上を図った。

#### 【豊かな人間性の育成】

児童生徒の豊かな人間性・社会性を育むため、体験活動や地域学習活動を実施したほか、学校における復興教育への取組を支援し、復興・発展を支える児童生徒の育成に努めた。また、「花巻市いじめ防止等のための基本的な方針」に基づき「花巻市いじめ問題対策連絡協議会」を開催し、関係機関との連携を図るとともに、各学校では6月の「いじめを考える日」に児童会や生徒会が主体となっていじめをなくすための取組を実践した。

#### 【特別支援体制の充実】

学校不適応児童生徒に対応するため、生徒支援員や教育相談員、スクールソーシャルワーカーを配置し、教育相談や適応指導を行うとともに、特別な指導・支援を要する児童生徒へのきめ細やかな指導を行うため、各学校にふれあい共育推進員を配置し、児童生徒が豊かな学校生活を送ることができるよう、子どもの心に寄り添うことに努めた。

#### 【教育環境の充実】

「花巻市立小中学校における適正規模・適正配置に関する基本方針」を策定し、その内容について、保護者等の理解を深めるため教育懇談会を開催した。

私立高校の教育環境の整備充実や大迫高等学校の生徒確保支援のため、補助金を交付した。

良好な学習環境と安全・安心な学校運営のため、施設の修繕・改修を実施したほか、大迫中学校の屋外環境の整備を行った。また、近年の猛暑に対応するため、国の補助事業を活用して市内小中学校にエアコンを設置した。

経済的な理由により就学が困難な児童生徒に対して就学援助費を給付したほか、就学に向けた支援が必要な方を対象とした返還免除型の奨学金制度「はなまき夢応援奨学金」や「奨学金活用人材確保支援事業補助金」による支援を行った。

児童生徒の登下校中の安全確保のため、スクールガードリーダーによる巡回指導及びスクールガード養成講習会を開催した。

家庭・地域との連携による学校経営を推進するため、地域コーディネーターを配置した。

中1ギャップの解消と9年間を見越した学力向上を図るため、小中連携教育を推進した。

学校図書館の充実を図るため、学校図書館支援員を配置し、児童生徒が読書に親しみやすい環境づくりに努めた。

教員の生徒指導や教材研究等の時間を確保するため、中学校10校に部活動指導員を配置した。

## (1) 学力の向上

(単位：千円)

No.	事業名	事業概要	予算額	決算額	担当
1	学力向上推進事業	児童生徒の学力向上のため、きめ細やかな指導充実と教員の資質向上に努めた。 ○学力向上支援員配置 学校教育課に在籍して各校の学力向上の取組を支援 ○はなまき授業サポーター配置 30人を超える学級を有する小学校6校に8人 ○中学サポーター配置 30人を超える学級を有する中学校3校に3人 ○学習定着教材の活用 中学1・2年生に学習定着シート(Gアップシート)を配布し、学校における補充指導支援 ○到達度学力検査 小学3・4年生及び中学1年生を対象に実施 ○漢字能力検定助成 読解力向上と家庭学習の習慣、動機付けを図るため、小学校5・6年生を対象に、漢字能力検定受検手数料を助成	21,526	19,636	学校教育課
2	まなび交流学習事業	児童の発達段階に応じた学びの場の提供のため、複式学級に在籍する児童に対し、集団で行う実技教科等を経験できる環境を提供した。 ○小規模校と中規模校間で音楽、体育、総合的な学習の時間等で行う交流学習を支援 ・笹間第一小学校と笹間第二小学校 4回 ・大迫小学校と内川目小学校、亀ヶ森小学校4回	230	67	学校教育課
3	指導運営費	教育研究所を設置し、学校教育上の課題解決や教職員の資質向上等に関する専門的・技術的事項の調査研究や研究・研修を推進し、本市の教育水準の向上を図った。	9,933	8,715	学校教育課
4	教科用図書採択事業	教科用図書の採択に伴う事務費等に係る負担金を支出した。教師用教科書及び指導書を購入・配布することにより、円滑な教科用図書の更新を行った。 ○中学校道徳教科用図書及び指導書の購入	1,716	1,692	学校教育課

## (2) 体力の向上

No.	事業名	事業概要	予算額	決算額	担当
1	体力向上実践推進事業	児童生徒の基礎体力の向上のため、実践校を指定し取組を支援した。	225	128	学校教育課
2	小中学校スポーツ振興事業	児童生徒のスポーツ活動の振興・発展のための事業を支援した。	3,950	3,950	学校教育課



### (3) 豊かな人間性の育成

No.	事業名	事業概要	予算額	決算額	担当
1	児童・生徒表彰事業	知・徳・体のバランスのとれた児童生徒の育成のため、体育・文化等の活動において、顕著な成果を収めた児童生徒を表彰した。 ・児童生徒栄誉賞 159人と30団体	521	188	学校教育課
2	キャリア学習支援事業	児童生徒の生きる力を育成するため、市内外における各種活動を支援した。 ○体験的な学習の充実 ○生徒会ボランティア活動支援	7,037	6,596	学校教育課
3	小学校外国語教育推進事業	小学校3年生から6年生の外国語活動(3・4年生は年間35時間、5・6年生は年間70時間)において、外国語指導助手(ALT)による指導を週1日行い、令和2年度からの小学校5・6年生の外国語教科化に対応した。	29,866	29,662	学校教育課
4	中学校外国語教育推進事業	生徒の語学力の向上と国際理解、国際感覚の育成のため、外国語指導助手(ALT)による異文化に触れる外国語学習を行った。 ・各学校で実施する英語検定の受検手数料の全額(年1回分)を助成 ・英語検定問題集を購入して各学校に配架	24,190	24,172	学校教育課

### (4) 個に応じた支援体制の充実

No.	事業名	事業概要	予算額	決算額	担当
1	特別支援事業	特別な支援を必要とする児童生徒に対する生活・学習支援や、不登校・不登校傾向にある児童生徒への登校支援を行った。 ・ふれあい共育推進員の配置 小学校18校・中学校11校へ47名 ・障がいのある児童生徒への教育支援体制推進 ・学校適応支援 教育相談員5名、生徒支援員6名、スクールソーシャルワーカー2名配置(拡充) ・ことばの教室巡回指導の実施	67,678	66,281	学校教育課

### (5) 学校保健の充実

No.	事業名	事業概要	予算額	決算額	担当
1	学校保健事業	児童生徒の体力向上のため、身体の健全な育成に努めた。 ・学校保健管理 学校医等の確保、検診の実施 ・花巻市学校保健会へ補助金交付	67,439	63,609	学務管理課

(6) 教育環境の充実

No.	事業名	事業概要	予算額	決算額	担当
1	小中学校学区再編成等調査事業	花巻市立小中学校における適正規模・適正配置に関する基本方針を策定した。また、PTA等保護者、地域関係者を対象とする教育懇談会を14回実施し、意見を伺った。	150	38	教育企画課
2	私立高校振興事業	私立高校の教育環境整備充実のため、補助を行った。	3,240	3,240	教育企画課
3	県立大迫高等学校生徒確保対策協議会事業補助金	大迫高校の存続に取り組む団体(同窓会・PTA・地域住民・各種団体で構成)を財政面で支援するとともに、大迫総合支所と連携し団体の活動をサポートし、新たに留学生の募集を行い、1名の応募があった。	1,140	1,140	教育企画課
4	小学校施設維持事業	良好な学習環境と安全・安心な学校運営のため、施設の維持管理を行い、長寿命化を図った。 ・施設修繕 ・遊具設置等業務 ・病虫害防除業務 ・校舎等維持補修、非構造部材耐震化・エアコン設置工事及び設計業務	655,300	605,420 (うち繰越分560,089)	教育企画課
5	中学校施設維持事業	良好な学習環境と安全・安心な学校運営のため、施設の維持管理を行い、長寿命化を図った。 ・施設修繕 ・設備更新等業務 ・病虫害防除業務 ・校舎等維持補修、エアコン設置工事及び設計業務	323,567	281,701 (うち繰越分265,140)	教育企画課
6	大迫中学校校舎改築事業	安全確保のため、学校の適正規模を見通した上で、安全・快適な教育環境の整備を行った。 ・自転車置場棟建築工事 ・屋外照明等設置工事 ・屋外環境付帯工事(外周通路等舗装、側溝整備) ・(繰越)屋外環境付帯工事(法面整備、階段設置ほか)	81,738	78,626 (うち繰越分19,444)	教育企画課
7	学校安全確保事業	児童生徒の登下校中の安全確保のため、学校安全体制に関わる組織を構築し、より効果的な安全指導や見守り活動を展開した。 ・小中学校の巡回への指導 248回 ・スクールガード養成講習会実施 6回	480	479	学校教育課
8	育英事業	向学心旺盛かつ優秀な学生で、経済的理由により就学が困難な学生に対して学資の貸与を行った。	6,062	5,537	学務管理課
9	奨学金活用人材確保支援事業	市奨学金の返還者に対して返還金の半額を補助することにより、人材の確保に努めた。 ・市内保育園で勤務する保育士に返還金の半額補助 ・市内大学を卒業後に市内に居住している者に返還金の半額補助	452	289	学務管理課

No.	事業名	事業概要	予算額	決算額	担当
10	学校地域連携推進事業	学校・家庭・地域が一体となって地域ぐるみで子どもを育てるため、家庭・地域との連携による学校経営の推進指定校を選定し、活動を支援した。 ・運営委員会の設置 ・3つの小・中学校区に地域コーディネーターを配置し、地域と学校の連携・協働による学校支援活動を実施	2,660	2,660	学校教育課
11	小中連携推進事業	中一ギャップの解消と9年間を見越した学力向上を図るために、小学校と中学校との連携による小中連携教育の推進指定校を選定し、活動を支援した。	113	75	学校教育課
12	学校図書館支援事業	学校図書館の充実を図るため、市内各学校における学校図書館の取り組みを支援する学校図書館支援員を配置した。	2,500	2,420	学校教育課
13	部活動適正化促進事業(新規)	中学校教員の時間外勤務縮減のため、市内中学校10校に20名の部活動指導員を配置し、指導の充実と教員の負担軽減を図った。	4,135	3,258	学校教育課

【成果指針】・・・岩手県学習定着度状況調査(現状値＝平成26年度)

		現状値	30年度	令和元年度 (実績値)	2年度 (計画目標値)
将来の夢や就きたい仕事など具体的な目標をもっている児童生徒の割合	(小)	85%	89%	88%	85%
	(中)	69%	71%	75%	75%
運動やスポーツが好きな児童生徒の割合	(小)	84%	93%	92%	85%
	(中)	82%	83%	81%	85%
自分にはよいところがあると思っている児童生徒の割合	(小)	78%	78%	69%	80%
	(中)	66%	71%	70%	70%
児童生徒の学力の定着状況 (県平均＝100)	(小)	105	101	99	105
	(中)	99	98	99	105

## 2.学校教育の充実についての評価

学力向上については、令和元年度岩手県学習定着度状況調査の結果によると、小学校は県平均と比較して、社会が同等、理科が0.4%上回ったものの、国語が1.1%、算数が0.9%下回り、全体でも0.4%下回る結果となった。中学校は、国語が0.2%上回り、理科が同等であったが、社会が0.9%、数学が0.1%、英語が1.0%下回り、全体で0.4%県平均を下回った。中学校は上昇傾向にはあるものの、小中学校ともに県平均を下回った原因として、家庭学習の時間が少ないことが考えられることから、クラブ活動やメディアに触れる時間の適正化を図ること等により、家庭学習時間を確保して、授業の質の向上との両輪による学力向上を図ることが必要である。

体力向上については、令和元年度全国体力・運動能力質問紙調査の結果によると「運動が好き・やや好き」と答えた児童生徒の割合が、前年度に比較して若干減少したことから、今後も実践校を指定するなどして、体力・運動能力に課題を抱える児童が多い学校を重点的に取り組んでいくことが望ましい。

学校適応支援については、教育相談員、生徒支援員及びスクールソーシャルワーカーを配置して学校生活に課題がある児童生徒に対応したが、不登校出現率が国・県同様に上昇していることから、欠席を長引かせないように早い時点での対応を図るためにも、学校及び関係機関と連携して取り組んでいく必要がある。

教育環境については、児童生徒の減少等、教育環境の変化に対応するため花巻市立小中学校における適正規模・適正配置を策定し、小中学校の保護者や地域コミュニティを対象とする教育懇談会を開催した。結果として、学校統合による複式学級の解消について合意を得た地域もあり、今後も適正規模・適正配置について慎重に検討を進める必要がある。

大迫高等学校の生徒確保については、交付した補助金で運行したスクールタクシー等の支援が評価されたことと、全国から留学生を募集し、1名が入学したこともあり、令和2年度の入学者数は27名であった。

小中学校の施設については、児童生徒の安全確保のため、非構造部材の耐震化や、老朽化した施設設備の修繕を実施したほか、大迫中学校の屋外環境の整備を行った。また、近年の猛暑に対応するため、国の補助金を活用し、普通教室にエアコンの設置を行い、教育環境の向上が図られた。

花巻市奨学金については、平成28年度以降の貸与者に対し、成績要件を廃止し、併せて入学一時金の新設を行ったことにより、おおむね募集人数を満たす貸与者となっており、住民のニーズに合った制度になっていると考える。同じく平成28年度に創設した、花巻市奨学金を活用した「ふるさと保育士確保事業」及び「ふるさと奨学生定着事業」は、これまでの実績から、保育人材の確保や定住の成果として充分とは言えない状況にあることから、更なる制度周知に努めるほか、他の制度との連携を図りながら充実した制度を構築する必要がある。また、平成29年度創設の返還免除型奨学金「はなまき夢応援奨学金」は、国で実施している低所得世帯の学生を対象とした返済不要の給付型奨学金制度の動向等を注視しつつ、奨学金制度全体の在り方を含めて再考し、より多くの生徒が進学の機会を確保できるよう努めていく。

豊かな学びの実現のため、地域人材を活用した多様な授業の実施や、学校図書館の読書環境の向上、児童生徒・教師・PTAが相互につながる小中連携の取り組み等を行った。県学習定着度状況調査で「学校に行くのが楽しい」と答えた児童生徒の割合は県平均並みであったが、「自分にはよいところがある」、「将来の夢や目標を持っている」と答えた中学生の割合がいずれも県平均を下回ったため、中学校での体験的な学習やキャリア教育の充実に向けていくことが必要である。

## 5. 芸術文化の振興

**【基本方針】「市民が、地域の歴史や文化、先人に誇りを持ち、芸術文化に親しむまち」**

### 【文化財の保護と活用】

市内にある文化財を保護し、併せて地域の振興を図るため、文化財の調査、管理、個人等が所有する文化財の保存のための指導を行った。また、遺跡保護の周知や開発行為に伴う発掘調査に加え、花巻城本丸跡の内容確認調査を実施したほか、文化財に関する理解と愛護の意識を高めるため、セミナーや講演会の開催、説明板や遺跡標柱の設置等を行った。

博物館においては、開館15周年記念事業として、「発掘された日本列島2019」を開催し、日本全国で見られた貴重な出土品を展示した。また、郷土にゆかりのある、チベット仏教研究家多田等観についての紹介を行ったほか、文化財センター等との共同企画展「松川滋安と揆奮場」を開催した。市内小中学校と連携し、博物館での学習期間を提供するとともに、館長講座等を開催し、市民が歴史・文化に触れる機会を提供した。

### 【民俗芸能の伝承支援】

ユネスコ無形文化遺産「早池峰神楽」をはじめとする市内各地域に古くから伝承されてきた民俗芸能の保存と活動を紹介するため、郷土芸能鑑賞会や青少年郷土芸能フェスティバルなど各種の鑑賞会事業を開催し、伝承活動や後継者育成の支援に努めた。

#### (1) 芸術文化活動の推進

No.	事業名	事業概要	予算額	決算額	担当
1	学校文化活動事業	児童生徒の豊かな情操を養うため、市内小中学校文化活動を支援した。 ・花巻市中学校文化連盟事業への補助 ・市内小中学校文化部等の大会出場経費の一部補助	560	551	学校教育課

#### (2) 民俗芸能の伝承

No.	事業名	事業概要	予算額	決算額	担当
1	民俗芸能伝承支援事業	地域の財産である郷土芸能を後世に引き継いでいくため、伝承活動成果の発表の場となる鑑賞会等を開催するとともに、市ホームページや広報紙を活用して、民俗芸能の公演・公開に関する情報を提供した。 ○早池峰神楽ユネスコ無形文化遺産登録10周年記念郷土芸能鑑賞会開催 大迫郷土文化保存伝習館公演、花巻市郷土芸能鑑賞会、古民家活用郷土芸能鑑賞会、花巻市青少年郷土芸能フェスティバル2019 ○全国民俗芸能保存振興市町村連盟に加盟	2,895	2,846	文化財課

#### (3) 文化財の保護と活用

No.	事業名	事業概要	予算額	決算額	担当
1	文化財保護活用事業	文化財を価値あるものとして、後世に伝え保護していくため、文化財の管理・修繕・指導等を行った。また、市民への周知を図るため、説明板の設置やセミナー等を開催した。 ○文化財の調査と指定、文化財の管理指導 ○文化財セミナー及び早池峰自然観察会開催3回	28,245	20,623	文化財課

No.	事業名	事業概要	予算額	決算額	担当
2	埋蔵文化財保護活用事業	貴重な歴史遺産である埋蔵文化財を適切に保護するため、遺跡の調査等を行うとともに、花巻城跡の内容確認調査を行った。また、遺跡に対する市民の興味関心を高めるため、講演会の開催等、埋蔵文化財の活用を図った。 ○埋蔵文化財の保護 花巻城本丸跡の遺跡内容確認調査 ○埋蔵文化財講演会の実施、総合文化財センターにおける展示公開ほか	41,805	21,804	文化財課
3	展示活動事業	展示会の開催により市民が普段目にすることがない歴史的資料や美術作品を紹介し、郷土の歴史や文化財への興味と関心を高めた。 ○特別展1回 発掘された日本列島2019 ○テーマ展3回 多田等観、花巻人形ほか ○共同企画展1回 松川滋安と揆奮場	27,937	26,450	博物館
4	教育普及活動事業	市内小中学校の児童生徒に博物館での学習を通じて、ふるさとの歴史文化への興味と関心を深め郷土を愛する心を養うよう努めた。 ○教育普及活動 館長講座2回、博物館講座7回、体験学習15回、出前講座23回、博物館学校教育連携研究委員会開催3回、広報誌発行3回	2,233	2,107	博物館

【成果指針】…まちづくり市民アンケート(現状値＝平成27年度結果)

	現状値	元年度	令和2年度 (実績値)	2年度 (計画目標値)
郷土の歴史・文化に対する誇りや愛着を持つ市民の割合	62.5%	68.8%	69.2%	65.0%

5. 芸術文化の振興についての評価

民俗芸能の伝承については、活動の維持、保存を図るため、各種の鑑賞会事業を開催しており、入場者数目標である2,200人を上回る2,340名(前年度2,180名)の入場者数となった。地域と芸能団体が一体となり、後継者の育成並びに伝承活動が確保されるとともに、観光振興や地域の活性化にも一定の成果があった。

文化財の保護と活用については、文化財の調査、管理、個人等が所有する文化財の保存のための指導のほか、説明板や遺跡標柱の設置等を行い、文化財の保護と地域振興を図った。また、花巻城をはじめとする地域の歴史や文化への関心を高めるため、文化財セミナーや早池峰自然観察会、埋蔵文化財講演会等を実施し、文化財に対する市民の認知や保護にかかる理解の向上に寄与した。

今後も花巻の文化財について広く情報発信することで、市民の文化財に関する理解と愛護精神の向上に取り組んでいく。

博物館の入館者数については、平成30年度と比較して322人の減となっており、新型コロナウイルス感染症の拡大により3月を休館にしたことが要因と考えられる。因みに、前年度の2月末時点との比較では920人の増となっている。

各種講座、セミナーについては、調査研究テーマのわかりやすい説明や、外部講師による講演等が好評を得ており、参加者も年々増加傾向にある。

また、市内各小中学校での出前授業や来館しての見学学習を行う学校が増えているが、これは、学芸員が各校の担当教諭と連携を密に図りながら、すべての学校が共通で学べるものに加え、それぞれの学校の地域特性を盛り込んだ内容としたことで興味や関心を高めたことなど、博物館資料を活用した学習メニューの充実を図ったことが要因と考えている。

今後については、アフターコロナの新しい生活様式を実践しつつ、特色ある企画展の開催や関連事業により、楽しさあふれる場を提供するとともに、博学連携の取組の強化によりさらなる魅力アップに努め、郷土の歴史・文化に対する誇りや愛着を持つ市民の割合を高めていきたい。